

ILC建設計画が見直されたが

質問 国際リニアコライダの建設計画について、世界の加速器研究所の所長で構成する「国際将来加速器委員会」が経費削減の観点から当初計画の50kmを20kmとする計画で承認され、「日本主導で早期に実現するよう」声明が発表された。これを政府に報告し政府は今年度末から来年度にかけて判断するものと想定される。まさに正念場を迎えているが、国の動向は。また市としての取り組みは。

市長 懸案となっている建設コスト削減のため20kmからスタートする計画である。建設コストは最大で4割程度削減され約5千億円となる見込みである。ステージング(段階的建設)の考

えて、20kmはスタートで最終的な計画50kmは変わらない。これを受け政府は来年夏ごろまでに判断すること



ILC誘致の看板 (江刺区玉里地内)



佐藤 郁夫 議員(市民クラブ)

なる見込みである。関係機関は一步前進ととらえており、正念場を迎えている。誘致に向け関係機関一丸となって陳情始め誘致活動を展開している。市としても東北ILC推進協議会を中心に政府に働きかけていきたい。

バス交通計画の見直しは

質問 本市のバス運行は民間バス路線とコミュニティバス、市営バス、ハートバス等各区で運行形態、料金も異なっている。高齢者や独り暮らし老人は停留所までも行けない状態なので、デマンド(家庭から目的地まで運行)交通中心にバス交通計画の見直しをすべ

きた。
市長 平成30年度から見直し作業に着手する。デマンド交通について、本市は市域が広大なため慎重に検討していきたい。

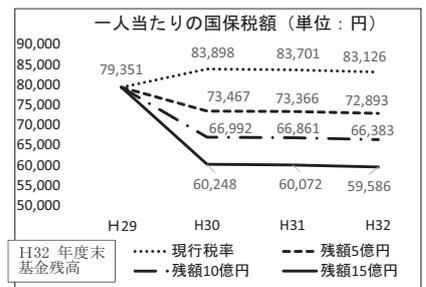
国保税の引き下げを問う

質問 来年度から国民健康保険が県単一の制度になる。地域によって保険料が医療の供給体制と関係なく同一にされるのは賛成できない、各自治体の独自施策を否定する統一化はすべきでない。また、平成26年度に国保税を引下げたにもかかわらず財政調整基金が積み増しされている。国民健康保険運営協議会に引き下げ案を3案諮問しているが、最大の引き下げ案を採用すべきだと考えるがいかがか。

市長 岩手県と市町村連携会議で議論されている。これから議論していくもので市として意見を述べていく。広域化によって負担が増すようなことのないよう注視していきたい。保険料については、できるだけ最低限の基金となるようなスタンスをとっている。国保運営協議会ではいろいろ意見があり慎重な意見も多かった。

減反政策廃止への具体策を求める

質問 天候不順による稲作では、大幅な減収田、刈り取り不能水田があり、刈り取りが終わり農業共済制度の適用が



※従来の国の基金残高指標は医療給付費の5% (約5億円)
平成29年度第3回奥州市国民健康運営協議会の資料より作成



今野 裕文 議員(日本共産党)

市長 全体像は把握できていない。農協と協力し被害の実態を把握する手立てをとりたい。減反政策では来年度400ha作付け拡大できると試算しているが、大豆や麦の生産拡大は難しいと考えている。